潮騒
第36号
平成25年
8月1日

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会
〒102-0083 東京都千代田区麹町四-五
海事センタービル
電話 〇三-三二三四-〇六六二
FAX 〇三-三二三四-〇六八二

海洋永遠の平和を
第43回戦没・殉職船員追悼式

国歌斉唱に続いて、戦没・殉職船員の鎮魂と永久の平和を祈り、黙とうを捧げる

第43回戦没・殉職船員追悼式は、初夏の晴天に恵まれた5月15日、横須賀市の神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」前で、全国各地からご遺族をはじめ立法および行政関係者、海事関係団体ならびに業界代表者、約500人が参列し例年どおり盛大に執り行われた。

式典に先立ち、海上自衛隊横須賀音楽隊による「真白き富士の嶺」「椰子の実」「千の風になって」の曲が、おごそかに演奏されると、参列者は静かに聴き入った。

式典は午前11時にはじまり、国家斉唱、黙とうに続き、会長式辞、内閣総理大臣追悼の辞が捧げられた。

海上自衛隊横須賀音楽隊の「君は帰る母なる海へ」が演奏される中、会長、遺族代表、海事振興連盟、各界代表に続いて参列者全員が白菊を献花し、戦没・殉職船員の御霊の鎮魂と海洋永遠の平和を願って、祈りを捧げた。

当日は、3年ぶりの晴天に恵まれ、東京湾口を望む「戦没船員の碑」の式場で、観世一門による能楽「海霊」が奉納された。

式典終了後、参列者は恒例の懇親会が行われる、観音崎京急ホテルへマイクロバスで移動した。

懇親会では、初めてこのような追悼式を知り、参列された戦没船員のご遺族、OB船員や参列者の皆さんの、再会を喜ぶ声が随所で聞かれ、和やかに歓談していた。

入場無料

戦時徴用船遭難の記録画　東京で開催

戦時徴用船の最期　大久保一郎遺作展

8/24～9/1　「靖國神社・遊就館」

第39回

「戦時徴用船の最期」大久保一郎遺作展

▼会期　8月24日㈯～9月1日㈰開館時間9時30分～16時30分

▼会場　靖國神社・遊就館大広間（玄関ホール）

▼入場無料（有料の遊就館とは別ルートで入場できます）

▼主催　（公財）日本殉職船員顕彰会

大阪商船（現・商船三井）の嘱託画家だった大久保一郎画伯は、戦況が悪化した昭和17年、当時の岡田永太郎社長から「次々に沈められる社船の最期を記録にとどめるように」言われました。

無料公開される遺作37点は、いずれも先の大戦で、そのほとんどが海の藻屑となった戦時徴用船の壮絶な最期と乗組員の悲惨な実相を伝える資料です。

波静かなれ とこしえ

第43回戦没・殉職船員追悼式

神奈川県立観音崎公園

式典は、晴天に恵まれ、緑したたる観音崎の戦没船員の碑で、植村保雄理事長の開式の辞に続いて国家斉唱を行い、「国の鎮め」の演奏にあわせ、戦没・殉職船員６万３５７１人の鎮魂と永久の平和を祈念して黙とうを捧げた。

顕彰会を代表して、前川弘幸会長が式辞を、国を代表して内閣総理大臣追悼の辞を国土交通省の竹田浩三大臣官房審議官が代読した。

◎式　辞

前川　弘幸　会長

本日ここに、第43回戦没・殉職船員追悼式を執り行うにあたり、全国各地から斯くも多くの、ご遺族をはじめ関係者の方々のご参列を賜りましたことに、心から感謝申し上げます。

本式典を前にした４月11日、あらたに殉職船員４人の名簿が奉安されました。これにより太平洋戦争で犠牲となった戦没船員６万６０９人の御霊と、海難などにより殉職された船員２千９６２人の御霊が、安らかに眠っておられます。

終戦から68年の歳月が過ぎ去った今日、戦争体験の風化や海事産業をとりまく環境の変化などによって、ややもすれば戦没・殉職船員への思いや功績が、その記憶とともに忘れ去られようとしています。

今日、我が国が海洋国家日本として、平和と繁栄を享受できているのは、これらの方々の尊い犠牲とご功績のうえにあることを決して忘れてはなりません。

ここにあらためて深く哀悼の誠を捧げるとともに、かけがいのない肉親を失い、様々な苦難の日々を送ってこられた、ご遺族の心情に思いをいたし、心から敬弔の意を表するものであります。

私たちは、この碑を建立した原点に立ち返り、戦没・殉職船員の御霊を追悼し、その功績を顕彰し、海洋国家日本の永久の平和と安全を祈念していくことを、ここにお誓いいたします。

安らかにねむれ　わが友よ
波静かなれ　とこしえに

ご参列いただいた皆様とともに、この碑に刻まれた御霊への祈りを捧げ、本会を代表しての式辞といたします。

◎内閣総理大臣追悼の辞

竹田浩三国土交通省大臣官房審議官代読

第43回追悼式に当たり、戦没・殉職船員の方々の御霊に対し、謹んで追悼の誠を捧げます。

先の大戦においては、祖国を思い、家族を案じた６万人余りの船員の方々の尊い命が失われました。戦後も、海難や労働災害によって２千９００人を超える方々がその職に殉じられています。また、一昨年３月11日の東日本大震災においては、被災地の水産業は壊滅的な打撃を受け、海と共に生きる方々に甚大な犠牲が生じました。

今日の我が国の平和と繁栄は、多くの尊い犠牲の上に築かれています。祖国の未来を信じて蒼海深く散った船員の方々の御霊の前で、末永い平和と海上交通の安全への誓いを新たにするものであります。また、被災地の復旧・復興の加速化を、ここに改めてお誓いいたします。

御遺族の皆様の深い悲しみに思いを致すとともに、戦没・殉職船員の方々の安らかな眠りを心からお祈りします。

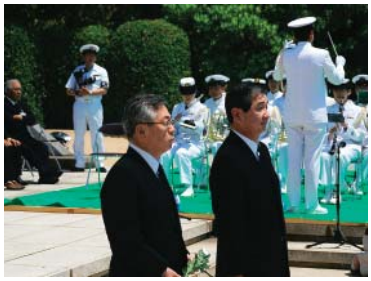
献花を捧げる

海上自衛隊横須賀音楽隊による鎮魂曲「君は帰る母なる海へ」が演奏され、献花が行われた。顕彰会を代表して前川会長（写真①）に続いて、遺族を代表して戦没船員遺族の、雨宮滋子さん、殉職船員遺族の藤原宏さんと小野寺麗子さんが白菊を捧げた。（写真②）

①
献花を捧げる前川会長

②
ご遺族の小野寺さん、藤原さん、雨宮さん

竹田さん、澁谷さん


白須さん、五十嵐さん

橋本さん、藤澤さん

森居さん、鈴木さん、沼田さん、板橋さん

清水さん、岩並さん、佐藤さん、武居さん

岡本さん、飯田さん、小幡さん

◎来賓・各界代表献花者

（敬称略）

雨宮　滋子（戦没船員遺族代表）
藤原　宏（殉職船員遺族代表）
小野寺麗子（殉職船員遺族代表）
漆原　良夫（海事振興連盟副会長
衆議院議員代理澁谷朗秘書）
竹田　浩三（国土交通省大臣官房審議官）
五十嵐　誠（日本船主協会副会長）
白須　敏朗（大日本水産会会長）
藤澤　洋二（全日本海員組合組合長）
橋本　則子（全国海友婦人会会長）
板橋　衛（横須賀市議会議長）
沼田　芳明（横須賀市副市長）
鈴木　仁（神奈川県横須賀土木事務所長）
森居　稔（神奈川県浦賀警察署長）
武居　智久（海上自衛隊横須賀地方総監）
佐藤　雄二（海上保安庁警備救難監）
岩並　秀一（海上保安庁
第三管区海上保安本部次長）
清水　正男（国土交通省海難審判所長）
小幡　政人（日本海事センター会長）
飯田　敏夫（航海訓練所理事長）
岡本　信明（東京海洋大学長）

◎式電をいただいた方々

（敬称略）

甘利　明（経済再生担当大臣）
衛藤征士郎（海事振興連盟会長衆議院議員）
松本　純（衆議院厚生労働委員長）
漆原　良夫（公明党国会対策委員長
衆議院議員）
河野　克俊（防衛省　海上幕僚長）
福田　秀樹（神戸大学長）
藤田　稔彦（鳥羽商船高等専門学校長）

殉職船員4名 新たに奉安

殉職船員の調査は毎年行われ、遺族の了解が得られた方のご芳名と没年月日を浄書した名簿を「戦没船員の碑」に奉安いたします。

本年4月11日に奉安された殉職船員は4名で、5月15日に執り行われた第43回戦没・殉職船員追悼式で全国から参列した方々から、鎮魂の祈りが捧げられました。

全国にはまだ奉安されてない多くの方々がいるものと考えますが、個人情報保護の下で情報の入手が困難な事に加え、ご遺族の了解が得られないケースも少なくありません。また、船主あてに送付した奉安調査表が、船主の協力が得られず、遺族まで届かないことも多くみられます。

追悼式を前に本年は次の4名（漁船3名、旅客船1名）の方々の名簿を戦没船員の碑へ奉安いたしました。

瀬川弘孝様（愛媛県立宇和島水産高等学校）
中田　淳様（愛媛県立宇和島水産高等学校）
越智　要様（㈲海漁水産）
中山　宏様（商船三井フェリー㈱）

初めて参列した皆様のお話し

河井さんご夫妻

もっと早く
河井賢二さん（広島県江田島市）

母の遺品の中に戦死の通知書、戦死３日前に佐伯港から出した手紙など、河井雛吉（一等調理手）に関する書類の中に、土佐沖で敵の潜水艦に沈められたと聞いていました。土佐沖の見える丘に立って合掌していたときに、横にいた人が何丸でしたかと聞かれ、答えられませんでした。帰って調べたら日本郵船の「でらごあ丸」だと知りました。しかし、どこに問い合わせればと思っていただけで、時間が過ぎていきました。

平成24年８月29日付の読売新聞に、日本郵船歴史博物館の記事があり「日米交換船とその時代」の題目に白十字船のことが書かれていました。早速、博物館に「父親のことを調べてほしい」と手紙を出しましたら、館長代理の脇屋様から手紙とともに船史のコピーをいただき、日本殉職船員顕彰会を知りました。私がもっと早く知ることができれば、平成23年９月２日に１０２才で亡くなった、河井ヨシノも参列できたかもしれません。今でもご遺族の方々で、日本殉職船員顕彰会を知らずに過ごしている方が多くおられると思います。こんなに大きな式典を行っているのに、何で気付かなかったのか、残念でなりません。

呉羽さん

心の靄ようやく晴れて
呉羽和男さん（名古屋市）

戦時徴用船「全勝丸」に航海士として乗り組んでいた父の呉羽亀一は、昭和19年８月４日に鳥島沖で船が撃沈され亡くなりました。当時34歳で、私は３歳、弟はこの日に生まれています。

実はこれまで、「父は船に乗っていて南方沖で戦死した」ということしか知らなかった。遺体も遺品も全くありません。父との記憶もなく、唯一、父に抱かれて撮った写真が１枚あるだけでした。しかし、偶然新聞記事で、日本殉職船員顕彰会の存在を知り、父の名前と船名を手がかりに同会に調査をお願いし、今年２月に船が沈んだ場所と日がわかったのです。

今は長年に渡る心の靄がようやく晴れた気分。追悼式では、はるか遠くに海を望みながら父のことを思い、胸が詰まりました。参列できてよかったです。私は海洋調査の仕事で、鯨を研究しており、鳥島付近には何度も行ったことがあります。私が海の仕事を選んだのも父の導きだったのかも知れませんね。

「海上の友　６月１日号より転載」

小野さんと甥の小笠原さん

三宮駅で父を見送り
小野恵美さん（東京都）

父の井上足彦は昭和18年７月27日、海南島沖で魚雷攻撃を受けて乗船していた輸送船「帝欣丸」が沈没し、亡くなりました。鉱石を積んでおりあっという間に沈んだと、生き残った方から聞きました。大阪商船で船長を務め、当時はすでに退職していたのですが、徴用船の船長として依頼を受けて乗船しました。船と最期を共にしたと聞いています。父は、休暇で家にいるときはまるで「お客様」。厳しい一面もありましたが、アメリカから西洋人形をお土産に買ってくれる優しい父でした。私は、いつも父のお土産を楽しみにしていました。

追悼式のことは、妹の息子で、私にとっては甥、父の孫にあたる小笠原亨が調べてくれました。妹はすでに他界しており、今日は甥が連れて来てくれました。初めて参列しましたが、丁寧に慰霊をしていただき、本当にうれしく思いました。父が乗船前、家族で神戸の三宮駅まで見送りに行きましたが、寝台車に乗り込んで行った父の面影を偲び、涙がこぼれました。

「海上の友　６月１日号より転載」

第43回戦没・殉職船員追悼式実行委員
平井克則
一般社団法人 大日本水産会

5月15日、横須賀にある神奈川県立観音崎公園『戦没船員の碑』に於いて、第43回戦没・殉職船員追悼式が行われた。小職は追悼式の実行委員として式の開催準備等に関わった。

この追悼式は昭和46年に戦没船員の碑が完成したことをきっかけに開催され、本年で43回目を迎える。全国からご遺族や、戦没船員と生死をともにした船員や海運・水産関係者などが参列して戦没船員の碑に献花を行うものであり、5年目、10年目などの節目の式には天皇陛下をはじめ皇族の方も参列される。

準備は当日の朝7時（一部の方は6時前）から観音崎京急ホテルにて開始される。皆が2階作業場に時間通りに集合すると、早速参列者に配る饅頭の袋詰めが始まった。饅頭の1階ロビーからの搬入、袋詰め、袋詰めされた饅頭のロビーへの搬出、という一連の作業を皆が協力し、手際良く袋詰めを行った。そのうちに自宅からの委員、協力者が続々到着する。袋詰めは約40分程度で終了した。

8時10分、袋詰めされた饅頭の殆どと、看板をはじめとする式用の資機材は我々実行委員と共に、マイクロバスで観音崎公園へと運ばれる。天気が頗る良い。公園内を式場へと上って行く車窓からは、五月晴れの空と浦賀水道越しの対岸が見渡せる。因みに昨年は土砂降りだったそうだ。「あんまり暑くならなければ良いがなぁ。」そんなことを考えているうちにバスは式場前に到着した。小職は受付担当、速やかに設営準備に取り掛かる。受付は9時スタートだ。

10時前頃から来場者が増え始め、その後は参列者を運ぶマイクロバスが到着する度に、受付に人が並ぶ状態が続いた。この日は朝鉄道ダイヤが大幅に乱れていたようで、参列者の来場は式の半ば過ぎまで続いた。好天に恵まれたこともあって参列者の数も多く、到着の遅れた参列者は席がないために立って参列する状態であった（公式発表参列者５００名）。

小職は受付業務にかかりっきりで、式の様子は全く目の当たりにしていない。マイクを通じて式辞等が聞こえてくるのみである。式では、国歌斉唱、黙とう、前川弘幸（公財）日本殉職船員顕彰会会長による式辞に続き、安倍晋三内閣総理大臣の追悼の辞を竹田浩三大臣官房審議官が代読、その後献花が行われた。各界代表献花では、本会白須会長も献花を行っている。全ての参列者が献花を終えた後、能楽「海霊」が奉納され、無事閉式となった。

43回を数えるこの追悼式だが、毎年訪れる参列者も多いようだ。帰りの送迎バスを待つ間、陽射しを避ける為にテントで休憩していたご婦人の言葉が印象的であった。「今日は本当に天気が良くて、昨年のような土砂降りにならなくて良かったわ。」

この式は1年かけて準備されるとの事、こうした重要な式を運営するのは大変である。式の全てが無事終わると、事務局の方々は皆安堵の色を見せていた。お疲れ様でした。

（大日本水産会
月刊誌「水産会6月号」より転載）

能楽「海霊」奉納

能楽「海霊」は、戦没船員と生死を共にされた、宮越賢治船長が御霊の鎮魂と功績を後世に継承するために作詞され、自らシテ（主役）となって昭和46年5月6日の第1回追悼式で奉納されました。

宮越船長は、昭和61年に亡くなられましたが、以来今日まで観世一門により、途絶えることなく継承され、奉納が続けられています

戦没・殉職船員追悼式は関係団体と個人協力者の支援で運営されています

式典の運営には大勢のボランティアの支援が欠かせません。第43回追悼式には海事関係14団体・34人と個人協力者6人に顕彰会スタッフ5人を加えた45人が携わりました。

当日は、3年ぶりの五月晴れで、日差しも強く暑い日でしたが、これまでの経験が生かされ、大きな混乱もなく終了したことは、一重に皆様のご支援の賜物と感謝いたします。

今回も実行委員の皆様から、次回につなげるご意見・要望が寄せられましたので一部を紹介します。

■道家一成さん（横須賀海洋少年団）

式が終了した後での、車への案内、コントロールにはまだ工夫の余地がありそうです。

今回、父（92歳）が参加、大変お世話になりました。戦没した兄を慰霊する機会を得たことに大変よろこんでおりました。

■礒垣洋平さん（東京海洋大学海事普及会）

担当させていただいた係では特記すべき改善点はありませんでした。

今回、初めて殉職船員追悼式に参加させていただいて、この式の大切さや、その歴史の長さを感じることができました。それとともに普段はあまり感じることのない海洋大（旧商船大）の歴史にもふれられたように感じました。

私は前日から式に参加させていただいたので、直接自分の担当に関係する人だけでなく、伝統ある式を作りだされている数多くの人々と話すことができました。そのような場を得られたという点でも本当に有意義な体験ができたと思います。

■宮川脩生さん（全日本海員組合）

今回初めて実行委員として参加させていただき、荒谷様と車輌係の会場乗降場を担当いたしました。初参加で何もわからない状況でしたが、綿密なスケジュール表や、委員会での細かい打合せでイメージをつかむことができました。「時間が長い」とか「内容が細かい」といった意見もあるかもしれませんが、今回の私のような経験のない者にとっては非常に心強いので、ぜひ今後もこのようなスタイルで運営していただければと思います。

また、会場乗降場で来賓車の運転手に渡す弁当の管理について、直射日光や害虫（雨天時では雨水）を防げるよう、クーラーボックスや大きめのダンボールなどの準備があるとよいかと思います。（今回は会場で余ったダンボールを集めて管理を行いました。）

昭和46年から続く歴史の重み、そしてなにより命の重みを感じるこの式典の実行委員として、今回初めてお手伝いをさせて頂きました。戦没・殉職船員について、映像や資料に触れたことはあるものの、間近で見たことはなく、戦没船員に至っては私が生まれる遥か前の出来事であり、このような無知に近い若輩者が実行委員を務めるのはたいへん恐れ多いと感じました。しかしその一方では、無知な自分が「知る・感じる」いい機会であると意気に感じ、全力を尽くすと同時に、何かを感じ取れるように視野を広くもつことを決意し臨みました。

当日は、会場近くの乗降場で主に来賓車輌を誘導する業務を担当しました。その中で、降車する来賓の方の真剣な面持ちや自衛隊の方々の緊張感ある姿、また、追悼式後の参列者の方々の表情を見て、直接会場を見ることはできずとも、この追悼式が関係する人にとってどれほど大きな意味を持つのかをひしひしと感じました。

追悼式を終えて今、実行委員としてお手伝いできたことはたいへん光栄でした。まだまだ私が無知であることに変りはありませんが、この歴史を、風化させることがないよう、今回の経験を深く胸に刻んでいこうと思います。

■木下　彩さん（全日本海員組合）

受付前にて代表献花者・取材予定者を対象としたリボン係を受け持っておりましたが、事前に充分な準備をして頂いていたこともあり、円滑に作業を進めることができました。

今回、戦没・殉職船員追悼式を実行委員の立場から見て、さまざまな団体の協力により成り立っているこ

▽横須賀海洋少年団（11人）▽東京海洋大学海事普及会（4人）▽全日本海員組合本部（3人）▽全日本海員組合関東地方支部「海友会」（2人）・「木洋会」（2人）▽大日本水産会（2人）▽日本船舶機関士協会（2人）▽日本船主協会▽日本内航海運組合総連合会▽日本船長協会▽全日本船舶職員協会▽日本海事広報協会▽日本水先人会連合会▽海技振興センター▽海洋会、以上各1人▽個人協力者（6人）に顕彰会（5人）が加わり、今回は45人で実行委員会を構成しました。（順不同）

とに驚きつつ、多くの方が必要としている式典であることを実感することで、海事社会における貴法人の役割の重要性を感じました。また、海事社会に携わる方々とお話しすることができたのも、追悼式の実行委員を務める中で、私が得たものの中のひとつです。さまざまな物事の見方が変り、視野を広げることができ、全日本海員組合の職員としても、業務に従事するにあたって今後に活きるものとなりました。今年が初めての参加であり、実行委員を務めることに対して不安もありましたが、円滑に作業が進むよう、充分な事前準備と、当日の丁寧なご指示をして戴きました事務局の皆様には感謝しております。ありがとうございました。

■小暮文悟さん（個人協力者）

交通入口担当でした。

近隣の散歩を楽しむ方達から気軽に様子を問われ、多少配慮しつつ受け答えしますが、天皇・皇后及び皇太子の臨席を期待しているようで、加えて追悼の意を理解いただくのが門番の仕事と思っています。

今年はタクシー等の強引な乗り入れを目論むマスコミもなく、穏やかな式でした。

しかし、インフラに事故があり11時30分過ぎに来られた方々もおられ、敬意を表します。

入口専門で本会場に縁のない仕事ですが、今年で5回目なれど、それなりの清々しい緊張感ありで有意義でした。

最近、NHK　BSでオリバー・ストーンの第二次大戦の知られざる一面が放映され、日本だけでなく原爆の被害なくも、当時のソ連国民が最大数犠牲になったとか。戦争には隠された事実が多々あるものです。毎年追悼しつつ戦争のない地球を願い続ける子供たちへ繋いでいきたいものです。

■宮寺重男さん（日本船舶機関士協会）

今回初めての試みで案内状の封筒を黒い箱に入れ、後でチェックする方式に変更したが、効率的で省力化でき良かったと思います。但し、一部来賓席へご案内すべき人を、私共の一般受付で処理してしまった。この点、来年から検討して頂きたい。

7年目となりましたが、年々不具合点が改善され、良い方向へ進んでいると感じております。今後は、交代者がスムーズに引き継がれることを望みます。

■荒谷秀治さん（全日本船舶職員協会）

今年の追悼式は晴天に恵まれて、式典終了後の懇親会会場に徒歩で向かわれる方が多く見受けられました。

懇親会会場での対応係として、質問等の収集の拝命を受けて会場を動き廻りましたが特に質問はありませんでした。役目として、声を掛けた宮城県と茨城県グループの方が、異口同音に毎回参加して慰霊をしているが、東日本大震災の年も参加する準備をしていたが、震災で出来なかったことが残念でならない、今後も参加しますとのこと。

戦後68年、遺族様の慰霊は永遠であることに感動しました。（本年も御手伝いが出来、有難うございました。）

■飯田洋司さん（日本船長協会）

担当、案内係（献花料受付）

お土産の配付方法を改善した方が良いと思います。

献花料をいただく際に、受付のテーブルに「献花料もこちらにお預かりします。」等の紙を貼るようにして、受付係が参列者にいちいち聞かなくてもいいようにした方が、スマートだと思います。

式典終了時に、炎天下でバスをお待ちいただかなくても良いように、整理券（バスの番号を決めて、受付時に渡すなど）を利用してみたらいかがでしょうか。

今回は裏方での参加となりましたが、しっかりとお参りもできました。現役の船員として一度は参加して、平和な海の大切さを再確認したいと思っており、今回は本当に良い機会を与えていただいたと感謝致します。また、来年も宜しくお願い致します。

顕彰会の皆様、本当にお疲れ様でございました。

皆さまのご厚情に感謝申し上げます

平成24年11月1日以降、平成25年7月10日までに、次の皆様からご寄付をいただきました。新たに賛助会員・協賛会員として加入していただきました。厚く御礼申し上げます。

本会の運営資金は、基本財産の利息収入のほか、会員からの会費や寄付金、海運・水産・旅客船などの会社および海事関係団体からの会費や補助金などで、戦没・殉職船員の慰霊・顕彰とご遺族への援護事業を支えています。

会員制度には、賛助会員と協賛会員があります。

賛助会員には、「法人」と「個人」があり、次の年会費をお願いしています。◎法人賛助会費＝1口10万円、◎個人賛助会費＝1口1万円。

協賛会員は「個人」にお願いしているもので、次の年会費をお願いしています。

◎協賛会費＝1口3千円。毎年4月に会費の納入をお願いしています

寄付金

○河合ハル子様（横浜市）○阿部健一様（川崎市）○武智弘忠様（伊予市）○竹端昭治様（豊中市）○久松金一様（土浦市）○寺田和彦様（貝塚市）○海事思想普及研究会様（神戸市）

追悼式献花料

○南七郎様（新潟県岩船郡）○山田利政様（松江市）○阪口勝子様（草津市）○山地好明様（宮津市）○山下義韶様（神奈川県中郡）○長野ヨネ子様（東京都中野区）○小林義隆様（篠山市）○川畑實恵様（明石市）○水野孝子様（新潟市）○坂元茂昭様（赤穂市）○小松和夫様（横浜市）○飯田喜久三様（東京都渋谷区）○石田昌克様（富山市）○安部千恵子様（名古屋市）○宮越和子様（佐倉市）○福田陽子様（雲仙市）○荒谷秀治様（横浜市）○米山隆昭様（東京都北区）○高等商船学校三期会様（東京都北区）○伊藤春子様（豊田市）○高等商船学校二期生会様（横浜市）○江藤政雄様（和歌山市）○荒川博様（東京都三鷹市）○日本郵船株式会社郵和会本部様（横浜市）○一般財団法人船員保険会様（東京都渋谷区）○横浜海員会館様（横浜市）○浪速タンカー株式会社様（東京都港区）○一般財団法人全日本海員福祉センター様（東京都港区）○財団法人日本船員厚生協会様（川崎市）○全国海運組合連合会様（東京都千代田区）○公益財団法人水交会様（東京都渋谷区）○公益財団法人日本船員雇用促進センター様（東京都中央区）○公益財団法人偕行社様（東京都千代田区）○鴨居三軒谷町内会様（横須賀市）○西川克巳様（神戸市）○藤井靖子様（府中市）○中村順子様（船橋市）○大圖富美子様（水戸市）○高垣宏江様（神戸市）○日本郵船株式会社横浜支店様（横浜市）○全国海友婦人会様（東京都港区）○全日本海員生活協同組合様（横浜市）○三宅弘様（逗子市）○鴨居地区連合町内会様（横須賀市）○都竹利年雄様（東京都杉並区）○全日本海員組合職員OB全国会様（東京都港区）○三輪史郎様（富里市）○北村禮子様（東京都江東区）○中野昭男様（名古屋市）○豊丸漁業有限会社様（横須賀市）○五十嵐温彦様（大和市）○村上富子様（気仙沼市）○小野寺麗子様（気仙沼市）○イイノマリンサービス㈱長濱俊哉様（東京都港区）○尾崎秀子様（神戸市）○福士武光様（札幌市）○福本茂様（東京都板橋区）○一般財団法人船員保険会常勤監事中澤政光様（東京都渋谷区）○鳥羽商船同窓会様（鳥羽市）○高垣幸徳様（神戸市）○才津俊朗様（横浜市）○古川昭様（日立市）○実穂海運有限会社様（姫路市）○小泉義男様（日立市）○新田尚子様（宇部市）○曽根幸雄様（横浜市）○南洋海運株式会社様（藤沢市）○升田紀子様（横浜市）○高野さよ子様（静岡市）○横須賀市東部漁業協同組合様（横須賀市）○河合ハル子様（横浜市）○公益財団法人日本海事センター代表理事（会長）小幡政人様（東京都千代田区）○船主団体内航労務協会会長石井繁礼様（東京都千代田区）○海事振興連盟会長衛藤征士郎様（東京都千代田区）○全国海友婦人会事務局局長新村利秋様（東京都港区）○住吉漁業株式会社様（三浦市）

新たな賛助会員の皆様

○臼居勲様（鎌倉市）○上野朝雄様（三浦市）○前川弘幸様（横浜市）○宮原耕治様（東京都千代田区）○平塚惣一様（東京都港区）

新たな協賛会員の皆様

○佐貫秀雄様（神戸市）○鈴木公彦様（横須賀市）○竹端昭治様（豊中市）○佐藤芳郎様（横浜市）○高野豊様（横浜市）○河井賢二様（江田島市）

殉職船員 ご遺族からのお便り

殉職船員ご遺族の方々からのお便りを紹介します。現在、遺児援護金の給付対象遺児は9人。大竹玲那さん（高校3年生）ほか、4人の保護者からのお便りを紹介します。

■大竹玲那さん（三重県）

私は、高校3年生です。この高校で沢山の出会いがありました。私の高校の校訓は『美しく生きる』です。そのために教養の授業が週に一回あります。礼儀作法を身につけるために、お茶の入れ方やコース料理の食事の仕方、浴衣の着付けなど今後生きていく中で役立ちそうな様々な教養を学びました。とてもいい経験でした。

韓国語も必須教科で学びました。学校には韓国人の女性の先生がいて、とても解りやすく教えてもらい私にとっては、お姉さん的な存在の先生です。修学旅行は、韓国でした。

大竹玲那さん

私の高校と姉妹提携している高校を訪問したりホームステイもしました。

食文化や生活習慣の違いを肌で感じました。ホームステイ先では、同じ年齢の子達と一緒に夜のショッピングに出かけ服やアクセサリーを見たり食事をしたり修学旅行での最大の楽しい思い出です。

仲のいい素敵な友達にも出会いました。毎日友達と色々なお喋りをしていつも盛り上がっています。勉強を教えあったり相談しあったり一緒に遊んだり、私にとって本当の心の友と出会うことができました。

そして、今、3年生も一学期を終え将来の自分を本格的に考える日々です。高校3年間での様々な出会いを通し、人の優しさ面白さ心の深さ等を常に感じました。私にとって『生きる』とは、人との繋がりだと思います。そういう意味からも大学に進学し臨床心理学を学び悩んでる人や困っている人、寂しい人達の心の支えとなれるよう微力ながら頑張りたいと思います。

最後に、私たち家族をいつも応援して頂きありがとうございます。

いつも支えて下さる皆様に感謝の気持ちを忘れず私の目標に向かって突き進んでいきたいと思います。

■阿部悦子さん（宮城県）

日々ありがとうございます。今週は、早くも体育祭が終わりました。1日過ぎるのがあっという間で、時間が足りないようです。

夏に向けて半袖のYシャツや制服の夏用ズボンの購入に使わせて頂きます。

＊前に次女（沙也加さん）がお世話になったのですが大学4年生になり就職の内定が決まりましたのでお知らせいたします。

■大竹初美さん（三重県）

いつも送金ありがとうございます。新年度が始まり早3ヶ月。子供たちは毎日元気に学校に行っています。

長女は、高3となり進学先を決定する時期となり、オープンキャンパスに参加しながら今後の進路について悩んでいます。

次女は、中1となり生活にも慣れ、テニス部に入り、日々日焼けしつつあり、たくましくなってきました。

■鎌野智美さん（徳島県）

いつもお世話になりありがとうございます。部活（弓道）も引退して早く帰って来る日が多くなりました。今は受験に向けて頑張っています。

■中野幸枝さん（宮城県）

いつも、ありがとうございます

子供も高校生活最後の1学期も終えようとしています。就職を希望しているようなので、それに向けていろいろ頑張っているようです。

殉職船員遺児へ

援護金を支給

当会の事業に、商船等で殉職された船員の遺児に返還義務のない援護金を給付する制度があります。

支給額は1人月額8千円のほか、入学記念品代として小学校入学時に3万円、中学校入学時と高校入学時には、それぞれ1万円を給付します。

支給期間は、遺児が義務教育および高等学校を終了するまで。詳しくは、当会事務局へお問い合わせください。

なお、漁船乗組員の遺児の方は、漁船海難遺児育英会が援護事業を行っていますので、お問い合わせください。

戦没船員功績等調査事業

戦没船員ご遺族や軍人ご遺族のほか、海事関係者や報道、研究者、一般の皆様から、電話やメール等で調査依頼が寄せられます。その中のいくつかをご紹介します。

■中越伸一さん（高知県）

電話で、祖父の戦没時の状況について問い合わせがあった。

当会の戦没船員の記録データにお名前があり、観音崎公園の「戦没船員の碑」に奉安されていることを伝えるとともに、祖父が乗船されていた「鉄海丸」の記述記事、海難報告書の写しを送付いたしました。

また、毎年観音埼の「戦没船員の碑」で追悼式を開催しており、今年5月15日（水）に挙行するので、参列のご案内を行った。

中越伸一さんから「新緑がまぶしい季節となりました。

祖父の調査の件では、早速に「鉄海丸」の資料を送っていただき、誠にありがとうございました。迅速な対応に心より感謝申し上げます。

ご案内がありました5月15日(水)の追悼式には、是非参列したいと思っております。

まずは、取り急ぎ書中にてお礼申し上げます。」との礼状が届けられた。

第43回追悼式に、遠方から初めて参列された。

■河井賢二さん（広島県）

父が徴用船「でらごあ丸」乗船中戦死しました。

毎年5月15日、追悼式が開催されている事を知った。今年の予定をお知らせ下さいとメールがあった。

今年の追悼式は、5月15日開催予定で準備を進めていますので、4月初旬に正式なご案内状を差し上げることをお知らせした。

また、当会が管理、所蔵する戦没船員に関係するデータならびに書籍を調査し、「でらごあ丸」に関する記述が載っている書籍から、戦没時の状況が記されている部分をコピーして送った。

協賛会員になられ、第43回追悼式に、遠方から初めて参列された。

■小口英吉さん（埼玉県）

当会を来訪され、祖父の弟が先の大戦で戦没しているので、当時の状況について調査してほしいとの依頼があった。

調査の結果、当会の戦没船員データに大叔父の記録があり「戦没船員の碑」に奉安されていること伝えた。

乗船中、戦死した「東崗丸」（とうこうまる）の沈没時の状況について、記述記事のコピーをわたした。

山形在住の戦没者のご遺族が、追悼式に参列を強く希望されているとのことであったが、今回は叶わなかった。

第43回追悼式には、小口さんお一人で初めて参列された。

終戦記念日献花式

終戦記念日（8月15日）に観音崎公園「戦没船員の碑」で献花式を行います。ご案内するのは、当会役員など約60人ですが、どなたでも参列することができます。参列される場合は、バス等の関係から顕彰会に必ずご連絡ください。

▼午前11時観音崎京急ホテル集合▼同30分マイクロバスで戦没船員の碑へ▼同50分慰霊碑の献花台前に整列▼「全国戦没者追悼式」のラジオ実況放送に合わせて総理大臣式辞▼12時黙とう、戦没船員の御霊を追悼し、海洋永遠の平和を誓います。▼同02分天皇陛下お言葉を聞き、閉式。マイクロバスで観音崎京急ホテルへ戻って昼食・解散となります。

服装は、白ワイシャツに黒ネクタイの軽装でお願いします。

例年、役職員のほか、海事関係者や当会役員経験者など30人余が参列し哀悼の誠を捧げます。

お知らせ

公益財団法人日本殉職船員顕彰会
電話03―3234―0662

投稿

「戦時徴用船」ドキュメンタリー只今取材中です。

鈴木　昭典　ドキュメンタリー工房　プロデューサー

「大久保が描こうとしたのは、《二つの鎮魂》…です。感動しました。その絵画が水害で泥まみれ、つまり第三の死の危機にありました。無条件で引き受けました。」

二つとは《船の死と船員の死》である。修復画家の黒江光彦さんは、近年目を不自由にされ、ご自身が工夫されたカメラで拡大してみる装置を覗きながら、興奮気味に語られた。いわゆる戦争絵画ではない。創作である。世界に類例のない戦争記録といえる…。

『ガダルカナル島で空爆を受け炎上する《九州丸》』『救命ボートで漂流中、遭難した米軍機の乗員を救助する船員』『定員過剰の救命ボートから席を譲って海中に去る若い船員』『猛炎に包まれたブリッジ』、『蒸気が充満した機関室で同僚の安否を確かめる乗組員』…。

シャッターチャンスにかける戦場カメラマンの写真に近い。音が、声が、聞こえてくる物語のような画だ。何枚かが組写真のようなストーリーを持っている。

黒江画家の努力にもかかわらず、大久保の描いた80点のうち37点しか蘇らなかった。

何故このような画が生まれたのか？　筆者が3年前、大阪の「なにわの海の時空館」で開催された記録画展で感動して以来、求め続けた疑問に的確な回答はない。多くの人の賛同を得て、漸くＮＨＫの番組として放送されることになり、いま取材が佳境に入っているところである。戦争中に描かれたこの《戦争文化遺産》の背景には、世界が戦争という狂気に支配された時代があった。海運企業は、２５００隻と６万人の船員を失った。

「記録として描け」と命令した当時の社長岡田永太郎氏の孫の時哉さん、喪失した商船三井の全ての船を取材し、壮大な『商船が語る太平洋戦争』を自費出版された野間恒さん、そして大久保画伯の長女の圭子さん。商船三井の資料室には、一隻ずつの詳細な事故報告書があり、戦時中の経営の苦悩を記録した株主総会の記録が保存されている。

証言者の殆どは、90歳前後という超高齢者、14歳15歳で戦場に赴いた少年船員が83～84歳。皆さん「10年遅すぎた」とおっしゃる。まだ人探しが続いている。

片岡武夫機関長の娘さんを探しています

ここからはお願い。絶対に見つけたい人がいる。山口千枝子さん（旧姓片岡）。

彼女の父親は、陸軍病院船だった「ぶえのすあいれす丸」の機関長片岡武夫氏（のちに海上保安庁の職員）で、ラバウルからパラオに向かっていた昭和18年11月27日、ニューアイルランド島付近で、米軍のＢ24爆撃機の爆撃を受け沈没、遭難されている。

ぶえのすあいれす丸の最期を大久保は3点の作品に残している。2枚は白い病院船の沈没状況を描いているが、1枚は《さめと闘う漂流中の乗組員》という不思議な情景である。

ぶえのすあいれす丸には、１１２９人の傷病兵と、衛生隊員・従軍看護婦など１６５人、乗組員１２８人が乗っていた。傷病兵、看護婦には大勢の犠牲者が出たが、乗組員は2人が亡くなっただけで、片岡武夫機関長も生還している。

その《サメと闘っている》のが片岡武夫氏そのものなのである。大久保は片岡の話を聞いて3枚目を描いた時、デッサンの鮫の絵をプレゼントしていた。

記録画と生存者証言テーマにドキュメンタリー番組制作

片岡氏は、そのデッサンを見せながら、娘の千枝子さんに話したというのである。

山口千枝子さんは、１９８４年9月札幌の三越デパートで開催された記録画展で、本物の絵画と対面している。その5年後の１９８９年8月、苫小牧の駅前サンプラザで催された記録画展にも来られ、顕彰会の求めに応じ、「札幌市中央区北二条西20」という住所を残しておられる。現在その住所には、居られない。

お元気の筈なので、恐縮ですが、何でも情報をお持ちの方は、ぜひぜひお教え下さい。

番組の放送日はまだ確定していないので、直近のこの会報でお知らせ申し上げます。

一昨年の大阪での記録画展で、㈱ドキュメンタリー工房の鈴木昭典さん（左）と、大久保画伯の孫にあたる吉田奈津子さん（右）

会長が交代しました

前川さんから宮原さんへ

宮原新会長

前川前会長

本会は、平成23年4月1日、公益財団法人に移行して2年余を経過しました。

平成25年6月28日の第7回評議員会で、役員（理事・監事）の任期満了にともない、役員の改選と評議員4名の交代が審議のうえ決議されました。同日、改選された理事15人（新任5人、再任10人）、監事2人（再任）による第9回（臨時）理事会が開催され、代表理事・会長、副会長、業務執行理事を選任しました。

退任された前代表理事・会長の前川弘幸さん（川崎汽船）の後任に、宮原耕治さん（日本郵船）が代表理事・会長に選任されました。

前川前会長は、当会が公益財団法人に移行して直ぐに会長に就任され、事業運営にご尽力されました。退任にあたり、「2年間、会長を務め、つつがなく過ごせた。ことに、今年の追悼式は晴天に恵まれ、戦後生まれの私だが、戦没船員の碑の前に立ち、海を眺める時、万感迫るものがありました。海上自衛隊、海洋少年団、海事関係団体のみなさんの協力を得ながら、追悼式が運営されていることに意義を感じました。退任はするが個人として、賛助会員となり顕彰会を支えていきたい。」とごあいさつされました。

新会長に就任した宮原さんは、「戦後68年、戦争の記憶も風化する今日この頃である。先人たちの思いを後世に語り継いでいくことが大切である。また、昨今では子どもたちの海離れが進んでいるといわれているが、海の恵みに感謝し平和を願う気持ちを持って、今後、新たな課題に取り組んでいきたい」と抱負を述べられました。

退任された理事は、前川弘幸さん（川崎汽船）、藤澤洋二さん（全日本海員組合）、小野嘉久さん（日本水先人会連合会）、武田和彦さん（日本船舶機関士協会）、中本光夫さん（日本船主協会）。

評議員は、井上晃さんから田中初穂さん（日本船主協会）、平塚惣一さんから根本正昭さん（商船三井）、宮寺重男さんから高瀬敏一さん（日本船舶機関士協会）、渡邊泰輔さんから飯田洋司さん（日本船長協会）に交代されました。

代表理事・会長	宮原耕治	日本郵船（株）　会長
理事（副会長）	朝倉次郎	（一社）日本船主協会　会長 川崎汽船（株）　社長
理事（副会長）	森田保己	全日本海員組合　副組合長
理事（副会長）	上野孝	日本内航海運組合総連合会　会長
理事（業務執行理事・理事長）	植村保雄	（公財）日本殉職船員顕彰会
理事（業務執行理事・常務理事）	岡本永興	（公財）日本殉職船員顕彰会
理事	芦田昭充	（株）商船三井　会長
理事	内田成孝	（一社）全日本船舶職員協会　会長
理事	小野芳清	（一社）日本船主協会　理事長
理事	小島茂	（一社）日本船長協会　会長
理事	重義行	（一社）大日本水産会　専務理事
理事	豊田耕治	（一社）海洋会　会長
理事	豊島達	（公財）日本海事広報協会　理事長
理事	平井奉行	（一社）日本船舶機関士協会　会長
理事	福永昭一	日本水先人会連合会　会長
監事	本望隆司	（一社）全日本船舶職員協会　専務理事
監事	三尾勝	（財）日本船員厚生協会　常務理事